

(3) スポーツ施設

体育館や運動場、プール、スタジアムなどを整備しており、スポーツ・レクリエーション交流の拠点となるとともに、市民が気軽にスポーツ・運動に親しみ、スポーツや健康づくりを習慣にすることで、市民の健康増進や体力向上に役割を果たしています。

(4) 青少年施設

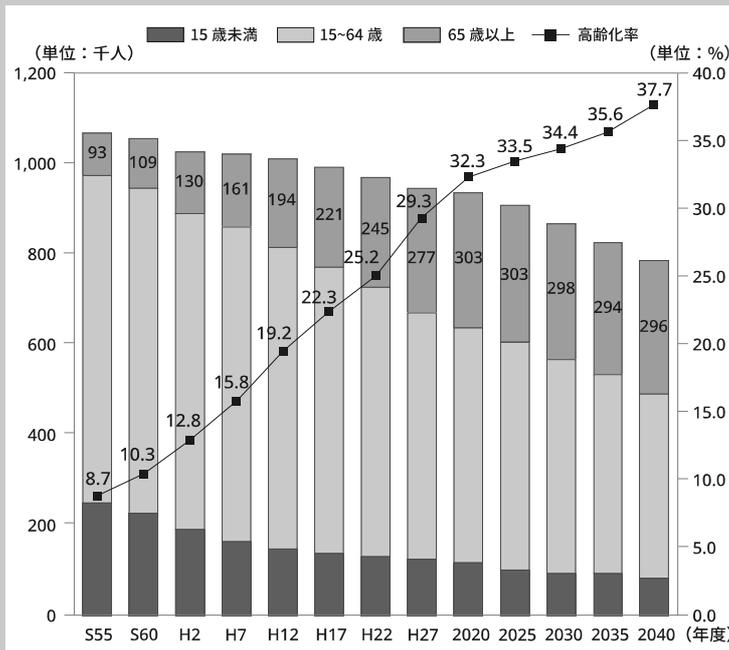
青少年の家、児童文化施設及び青少年キャンプ場を整備しており、青少年の健全育成を目的に、それぞれで特色を活かした体験活動を実施することができます。また、若者が自己を発見し、社会性や自立性を身に付ける場としてユースステーションを整備しています。

5. 北九州市の状況～社会的背景と生涯学習に求められること～

(1) 少子高齢化と人口減少の進行

- 本市の人口は、昭和54年の1,068,415人（推計人口）をピークに減少傾向にあり、令和2年には937,833人（推計人口（令和2年3月1日現在））となっています。
- 本市の高齢化率は、平成2年に全国を上回り、その後、一貫して全国平均よりも高い水準で推移しています。
- 医学の進歩や生活水準の向上等により、平均寿命は伸びており、平均寿命と健康寿命の差を短縮することが必要です。

【図表1 本市の人口及び高齢化率の推移】



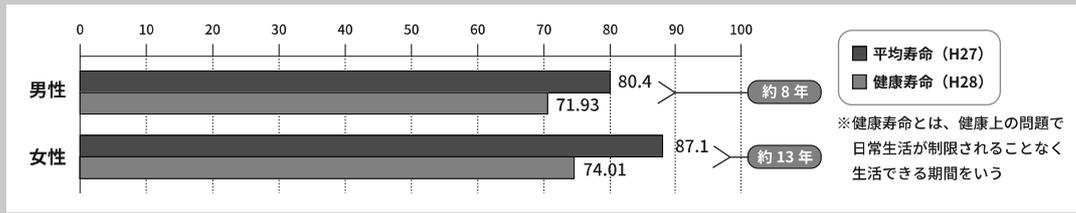
資料：2015（平成27）年までは総務省「国勢調査」、2020年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「『日本の地域別将来推計人口（平成27年3月推計）』の「男女・年齢（5歳）階級別の推計結果」による推計結果
※昭和55年～平成27年の高齢化率の算出には、分母から年齢不詳を除いている。

【図表2 平均寿命（0歳の平均寿命）】

年次	北九州市		全国	
	男性	女性	男性	女性
昭和40年(1965)	-	-	67.74	72.92
昭和45年(1970)	69.24	75.08	69.84	75.23
昭和50年(1975)	70.95	76.94	71.79	77.01
昭和55年(1980)	72.70	78.84	73.57	79.00
昭和60年(1985)	73.94	80.66	74.95	80.75
平成2年(1990)	74.73	81.91	76.04	82.07
平成7年(1995)	75.82	83.04	76.70	83.22
平成12年(2000)	77.00	84.21	77.71	84.62
平成17年(2005)	77.81	85.55	78.79	85.75
平成22年(2010)	78.85	86.20	79.59	86.35
平成27年(2015)	80.44	87.06	80.77	87.01

資料：厚生労働省「平成27年都道府県別生命表の概況」

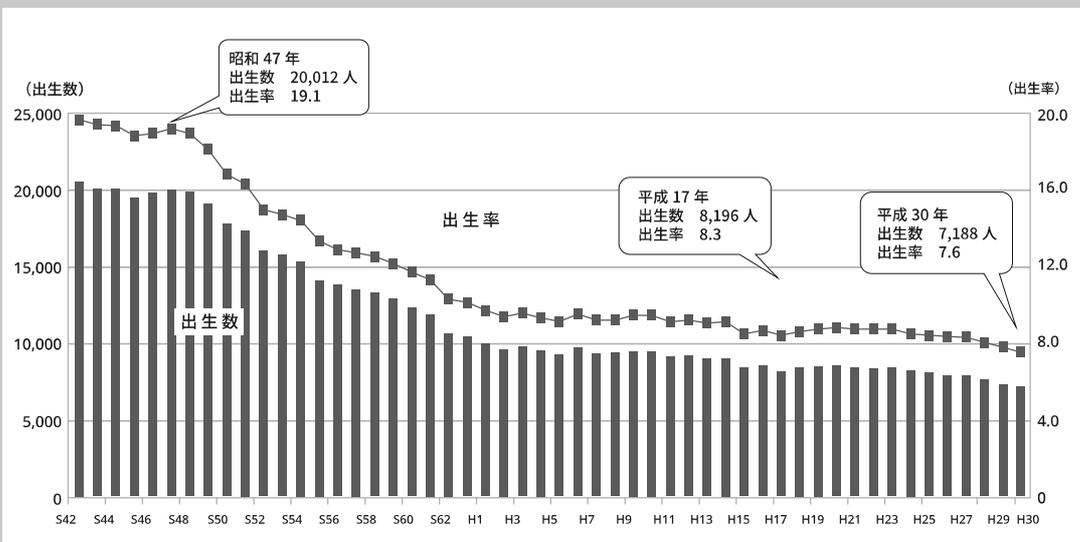
【図表3 健康寿命】



資料：平均寿命／平成 27 年完全生命表（厚生労働省）
健康寿命／厚生労働省科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病予防対策の費用対効果に関する研究」（厚生労働省研究班）

- 本市の出生数は、第2次ベビーブーム（昭和46～49年）以降減少傾向にあり、平成26年には8,000人台を割り、平成30年は、過去最も少ない7,188人（前年比161人減）となっています。
- 少子高齢化と人口減少の進行は、本市全体として経済規模の縮小、社会保障費の増大などを招き、今後、持続可能で活力あるまちづくりを進めるにあたっては、地域コミュニティの機能の維持をいかに図っていくかが重要な課題となっています。

【図表4 本市の出生数と出生率の推移】



資料：厚生労働省「人口動態調査」

生涯学習に求められること

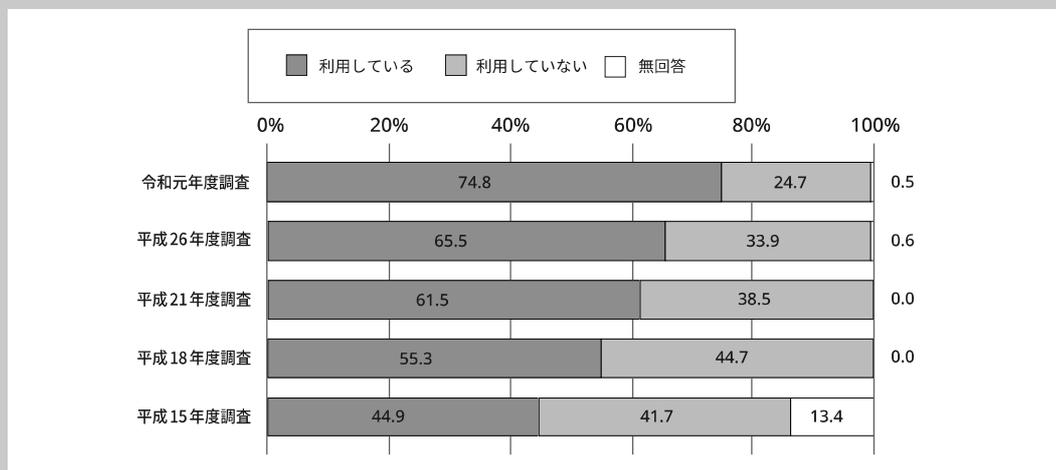
- ★健康寿命の延伸につながる高齢者の健康づくりや生きがいの原動力となる生涯学習のきっかけを増やし、生涯学習をする人の裾野を拡大
- ★少子高齢化や今後の社会環境の変化など、様々な社会的課題に対応できる学びの提供と次代を担う人材の育成
- ★学びと活動の場を通じて高齢者の社会参加を促し、持てる能力を発揮し社会貢献につなげる仕組みづくり

(2) 情報化・グローバル化の進展

①情報化

- 令和元年度の調査によると、本市のインターネットの利用率は増えています。
- 年代別では、全ての世代で増加しています。特に、60歳代は、令和元年度の調査と平成26年度の調査を比較すると20.2ポイント上昇しています。
- 情報通信技術は目まぐるしく進化しており、日常生活にも大きな影響をもたらしています。
- 生涯学習においても、インターネットを利用した「学び」と「活動」の場が増えるなど、学習形態や学習場所が変化しています。

【図表5 インターネットの利用状況（全体）】



資料：北九州市

【図表6 インターネットの利用状況（年代別推移）】

		令和元年度	平成26年度	平成21年度	平成18年度	平成15年度
合計		74.8%	65.5%	61.5%	55.3%	44.9%
年代別	19歳以下	100.0%	100.0%	94.5%	93.6%	66.7%
	20歳代	100.0%	94.0%	92.5%	81.2%	73.4%
	30歳代	100.0%	95.6%	87.0%	82.5%	68.2%
	40歳代	97.0%	90.3%	82.4%	76.9%	63.2%
	50歳代	93.7%	78.0%	67.0%	52.3%	35.6%
	60歳代	72.9%	52.7%	35.4%	25.4%	21.7%
	70歳以上	28.3%	14.9%	17.4%	13.3%	7.0%

資料：北九州市

生涯学習に求められること

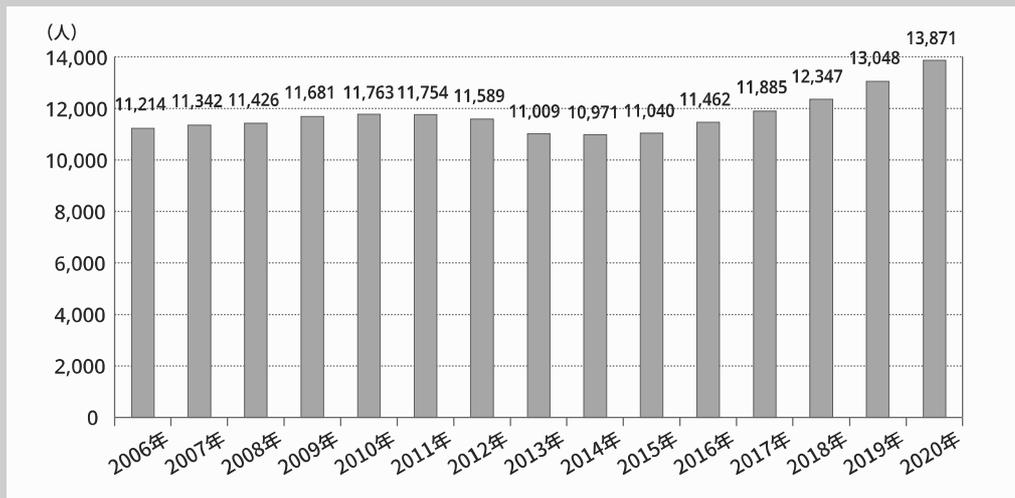
- ★より多くの市民に生涯学習の情報が発信できるよう、年代・属性等に応じた学習機会と情報の提供

②グローバル化

○市の外国人市民、留学生が増加しています。

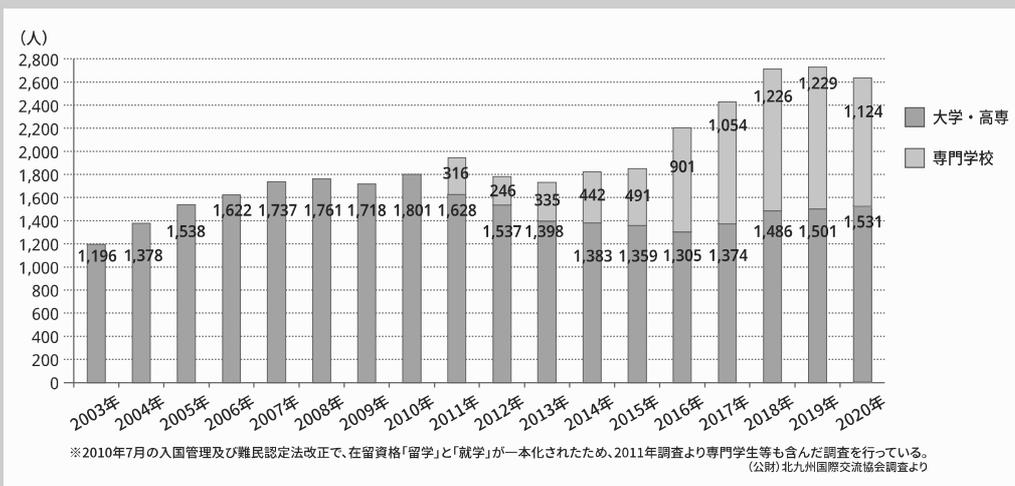
○外国籍市民等の増加に伴い日常生活でも共生する場面が増えています。

【図表7 本市の外国人市民（住民登録者）数の推移】



資料：北九州市

【図表8 市内留学生数の推移】



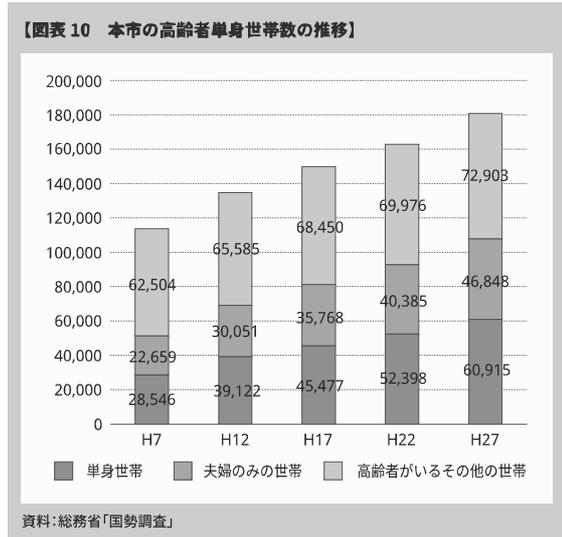
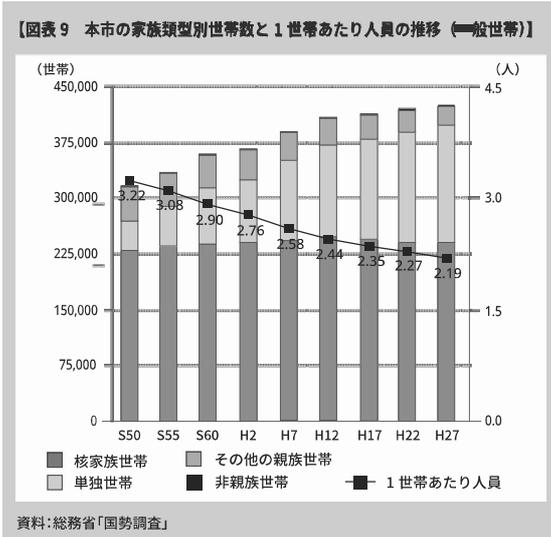
資料：北九州市

生涯学習に求められること

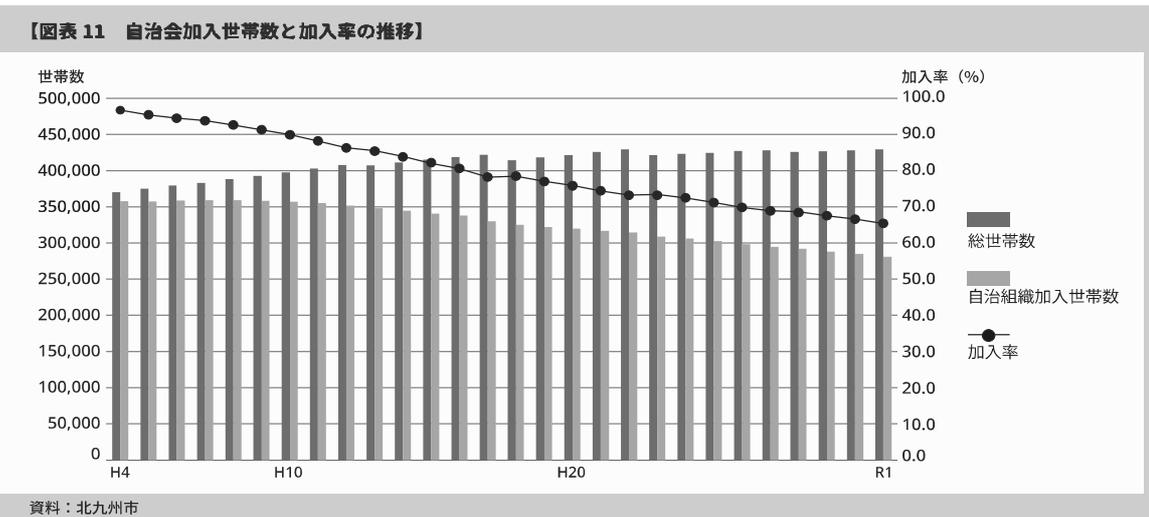
- ★より多くの市民に生涯学習の情報が発信できるよう、年代・属性等に応じた学習機会と情報の提供
- ★外国籍市民等が地域の一員として安心して本市に住み続けられるよう、外国人同士の交流、地域住民との交流促進

(3) 家族形態の変化・地域コミュニティの希薄化

- 平成27年の本市の一般世帯数は425,544世帯で平成22年419,984世帯に比べ5,560世帯が増加しています。
- また、単独世帯の占める割合は平成22年の34.6%から平成27年は2.4ポイント増の37.0%となっています。
- 高齢者のいる世帯数は全体的に増加傾向となり、中でも、高齢者の単身世帯が増加していることが特徴として挙げられます。



- 高齢化の進展や共働き世帯の増加等により、自治会の役員のなり手が不足し、自治会加入率が低下しています。
- 地域社会における人と人とのつながりや支え合いの希薄化が進んでいます。



生涯学習に求められること

- ★地域活動を担う人材を育成するための学びの機会の充実
- ★生涯学習を通じた地域の人と人をつなげる仕組みづくり

(4) 市民力による課題解決を目指す取り組み

○市内で活動する NPO 法人は様々なフィールドで活躍しており、特に「保健・医療・福祉」「まちづくり」「子どもの健全育成」の分野が上位を占めています。

【図表 12 市内 NPO 法人の状況】

市内に主たる事務所を置く NPO 法人数（各年度末現在）

年度	H28	H29	H30	R1
法人数	323 (市所轄：308)	331 (市所轄：315)	322 (市所轄：305)	304 (市所轄：289)

資料：北九州市

【図表 13 市内に主たる事務所を置く NPO 法人の活動の分野（複数回答）】

活動分野	法人	割合
保健・医療・福祉	166	51.6%
社会教育	125	38.8%
まちづくり	139	43.2%
観光	9	2.8%
農山漁村振興	3	0.9%
文化・芸術・スポーツ	88	27.3%
環境	71	22.0%
災害救助	22	6.8%
地域安全	30	9.3%
人権・平和	54	16.8%
国際協力	45	14.0%
男女共同参画社会	29	9.0%
子どもの健全育成	121	37.6%
情報化社会	22	6.8%
科学技術	7	2.2%
経済活動	31	9.6%
職業能力・雇用	82	25.5%
消費者	15	4.7%
連絡・助言・援助	107	33.2%



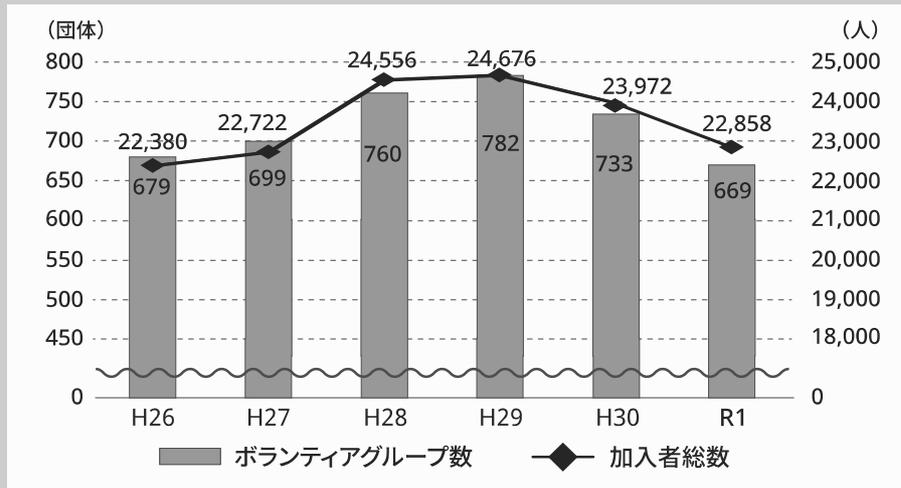
※令和元年度末現在

※複数の活動分野で活動する法人が多く、NPO 法人数とは一致しない。

資料：北九州市

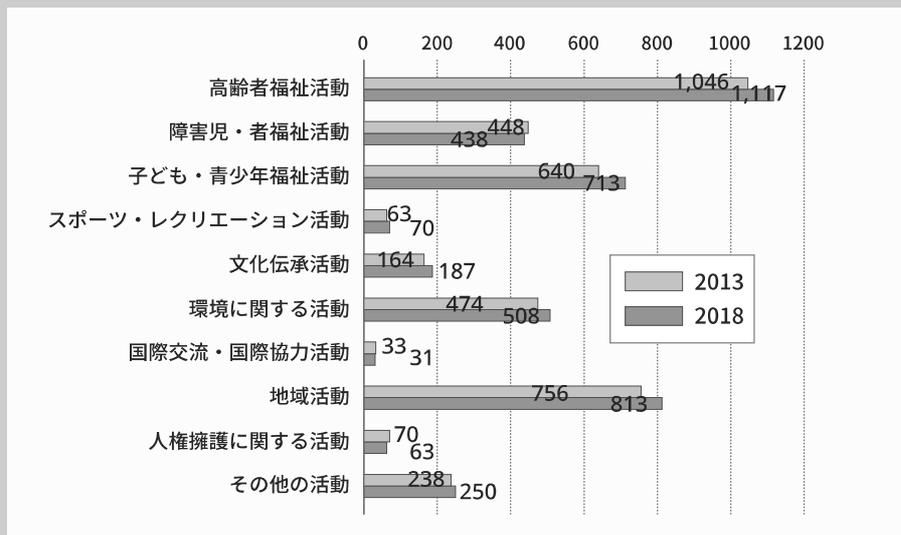
- 市社会福祉協議会のボランティア・市民活動センターに登録するボランティアグループは減少傾向です。
- ボランティアグループの活動領域は「高齢者福祉活動」「地域活動」「子ども・青少年福祉活動」が上位を占めています。

【図表 14 ボランティアグループ数及び加入者総数】



資料：社会福祉法人北九州市社会福祉協議会

【図表 15 領域別グループ数の比較 (延べグループ数)】



資料：社会福祉法人北九州市社会福祉協議会

生涯学習に求められること

- ★NPO活動やボランティア活動を担う人材の発掘・育成につながる学びの機会の充実
- ★地域とNPO・ボランティア団体等が連携した、地域の課題解決につながる仕組みづくり

(5) 財政状況

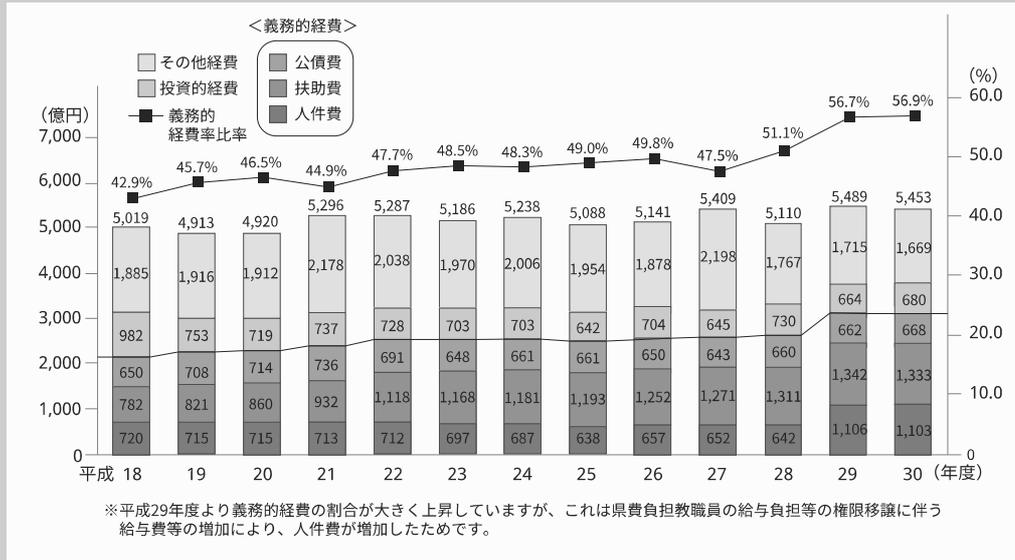
- 本市の財政状況は、歳入では自主財源比率が低く、財政基盤が脆弱となっています。
- 歳出では義務的経費比率が高くなっており、厳しい財政状況が続く見通しです。

【図表 16 一般会計歳入決算額の推移】



資料：北九州市

【図表 17 一般会計歳出決算額（性質別）の推移】



資料：北九州市

生涯学習に求められること

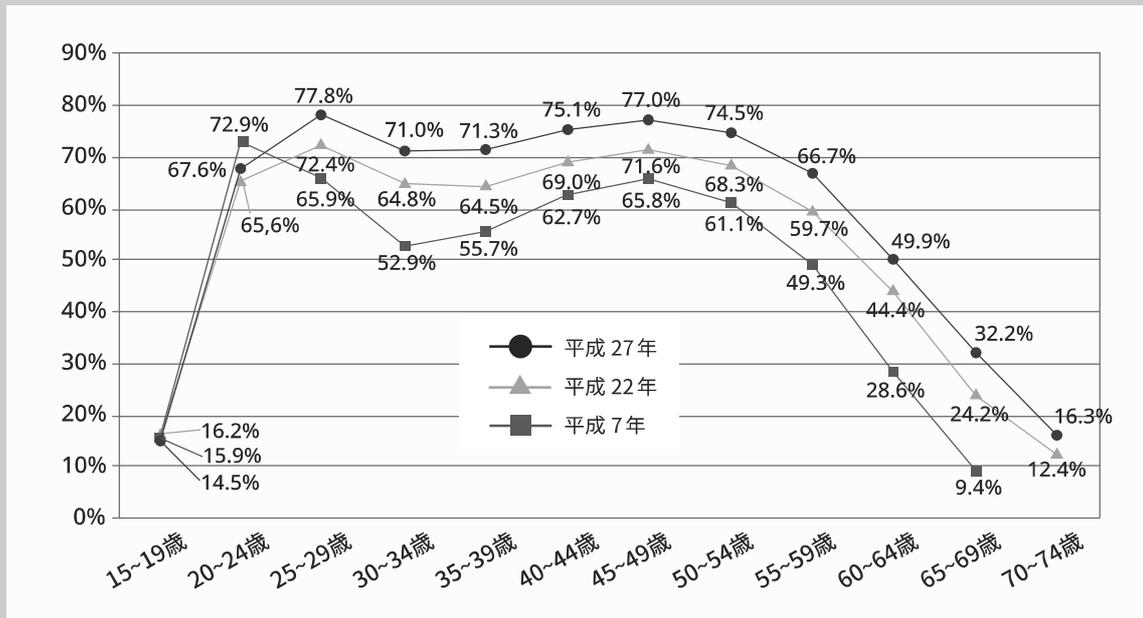
- ★ PDCA サイクルや効果の見える化等による、より効率的・効果的な事業の推進
- ★ 公共施設マネジメントの推進における選択と集中の観点から、生涯学習関連施設のより効率的な施設運営

(6) 子どもに関わる社会環境の変化

○平成27年の市の女性の各年齢階級別の労働力率は平成22年と比べ概ね上昇しています。

○児童虐待相談件数は、「早期発見・早期対応」の取り組みにより、増加しています。

【図表18 本市の女性の年齢階級別労働力率】



資料：総務省「国勢調査」

【図表19 児童虐待相談対応件数の推移】

年度	件数	児童人口	児童一人中 の件数	養護相談	養護相談中 虐待の 相談割合	全相談件数	全相談中 虐待の 相談割合
平成26年度	454件	152,501人	29.8件	1,462件	31.1%	6,923件	6.6%
平成27年度	606件	151,027人	40.1件	1,550件	39.1%	6,981件	8.7%
平成28年度	918件	149,052人	61.6件	1,868件	49.1%	6,772件	13.6%
平成29年度	1,139件	147,209人	77.4件	2,112件	53.9%	6,679件	17.1%
平成30年度	1,487件	145,164人	102.4件	2,630件	56.5%	7,243件	20.5%

資料：北九州市

- 地域と子どもとの関わりについては、市内の子ども会の加入者数と加入率が低下しています。
- 学校と子どもに関する環境の変化では、長期欠席の児童・生徒数は、増加傾向にあり、全国的にも同様の傾向です。

【図表20 放課後児童クラブ登録児童数】

年度	放課後児童クラブ登録児童数	高学年児童数
H27	10,551人	2,426人
H28	11,124人	2,675人
H29	11,489人	2,770人
H30	12,347人	3,031人
R1	12,575人	3,147人

資料：北九州市

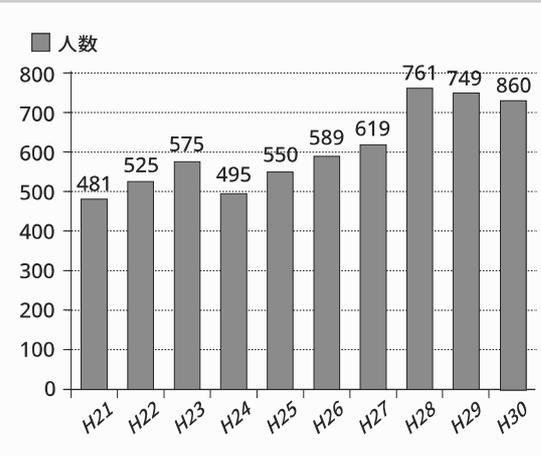
【図表21 市内の子ども会の加入者数・加入率】

年度	(参考) 児童数	加入者数	加入率
H26	49,867人	8,667人	17.4%
H27	49,600人	8,516人	17.2%
H28	48,909人	7,609人	15.6%
H29	49,009人	6,851人	14.0%
H30	48,903人	6,089人	12.5%

注：加入者数は小学生会員数 加入率＝加入者数÷児童数

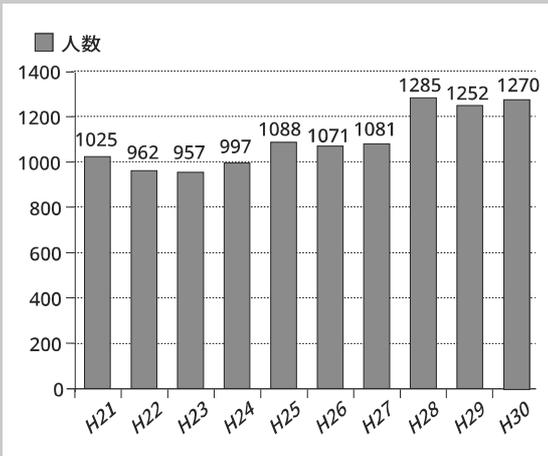
資料：北九州市

【図表22 小学校 本市長期欠席児童数】



資料：北九州市

【図表23 中学校 本市長期欠席生徒数】



資料：北九州市

生涯学習に求められること

- ★家庭教育支援の充実
- ★子どもが健やかに育つ環境づくりに向けた、家庭・地域・学校の連携促進、教育力の向上
- ★地域での多世代交流や体験活動等によるシビックプライド（地域への愛着や誇りに基づく市民意識）の醸成